道内耕地土壌の「今まで」と「これからの対応」

概　要 Abstract

道総研農業試験場は、半世紀以上にわたり、道内耕地土壌の調査を続けています。
その理由は、土壌の実態などを明らかにして、より効率的で安全な農業生産に役立てるためです。
最新の調査結果を過去のデータと比較することで、以下のことが明らかになりました。

成　果 Results

①この半世紀で大きく増減した成分があります。

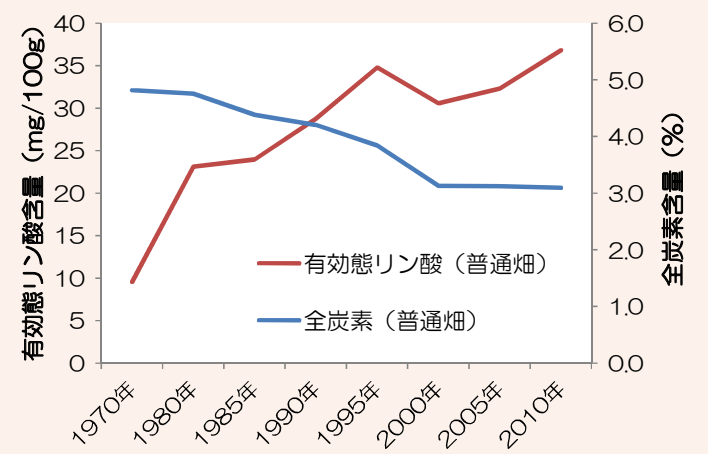

図1　作土中成分含量の変化

③もっと化学肥料を節約できる作物があります。

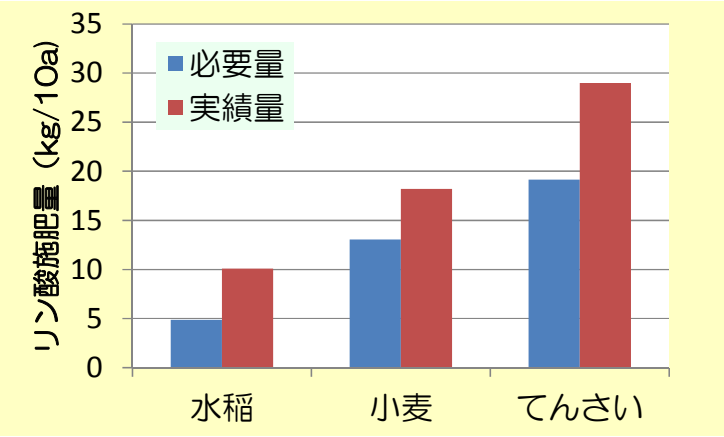

図3　リン酸施肥量の実態（2009年）

②理化学性が、望ましい範囲から外れている地点がまだまだあります。

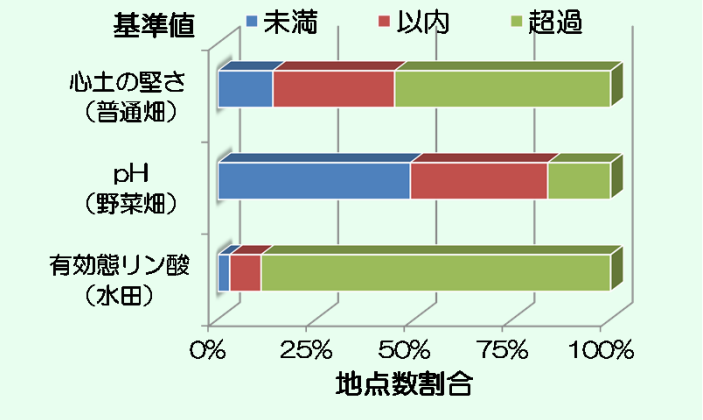

図2　最新データと土壌診断基準値との比較
（土壌診断基準値とは、農作物が良好な生育および収量を得るために望まれる値です）

④道内の耕地は、多くの炭素を蓄えています。
（深さ30cmまでで、CO_2に換算して5.2億tと推定されます）

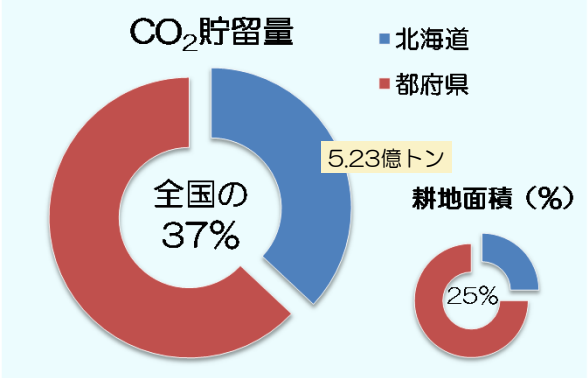

図4　CO_2貯留量と耕地面積割合

北海道は、国内耕地面積の25%で、CO_2の37%を貯留しています。

普　及 Dissemination

（1）耕地土壌の適正な管理および肥沃度維持のための基礎資料として活用します。

（2）土壌炭素貯留量については、国から国連への報告に反映されます。

連絡先 Contact

中央農業試験場
農業環境部 環境保全グループ
０１２３－８９－２００１
central-agri@hro.or.jp